

水稻中生品種における育苗箱施用剤の イネ紋枯病に対する防除効果

☆早生品種と同様に育苗箱施用剤により基本的には本田防除不要！

イネ紋枯病

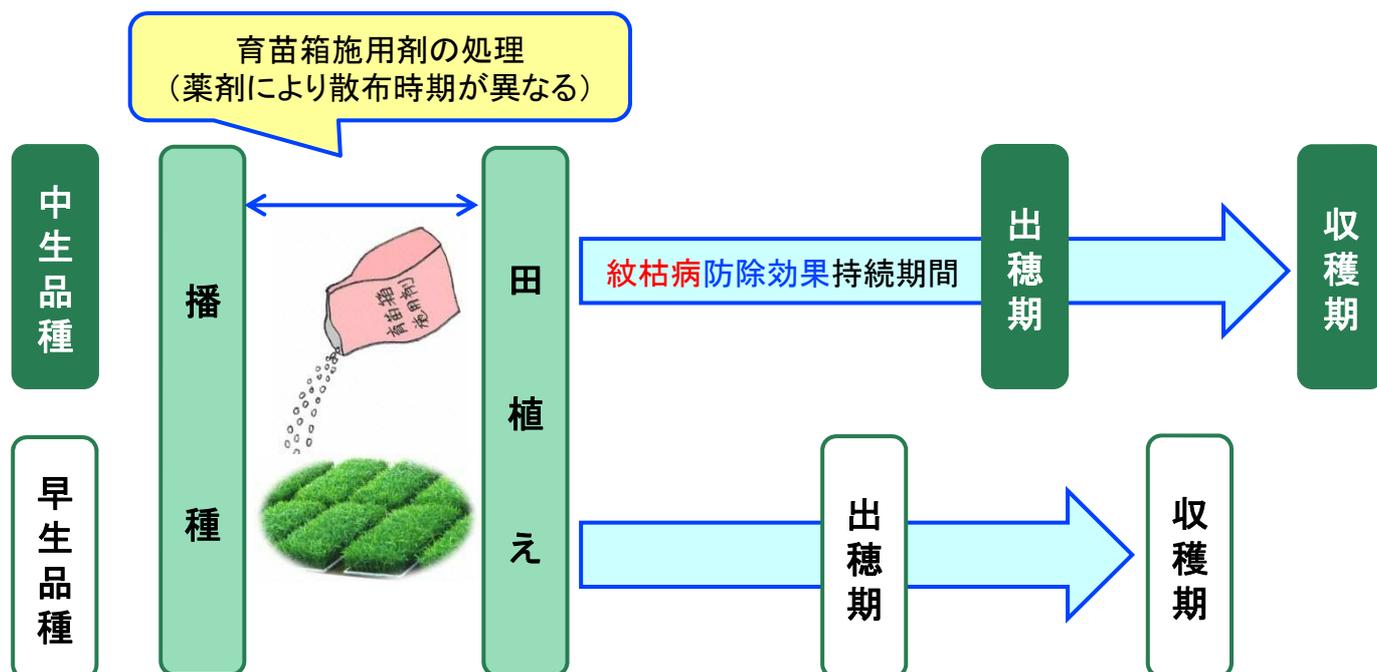


【病斑】

温暖化により発生ほ場増加傾向！



【収穫期の被害】



農薬の使用は用法・用量を守って、安全に！！

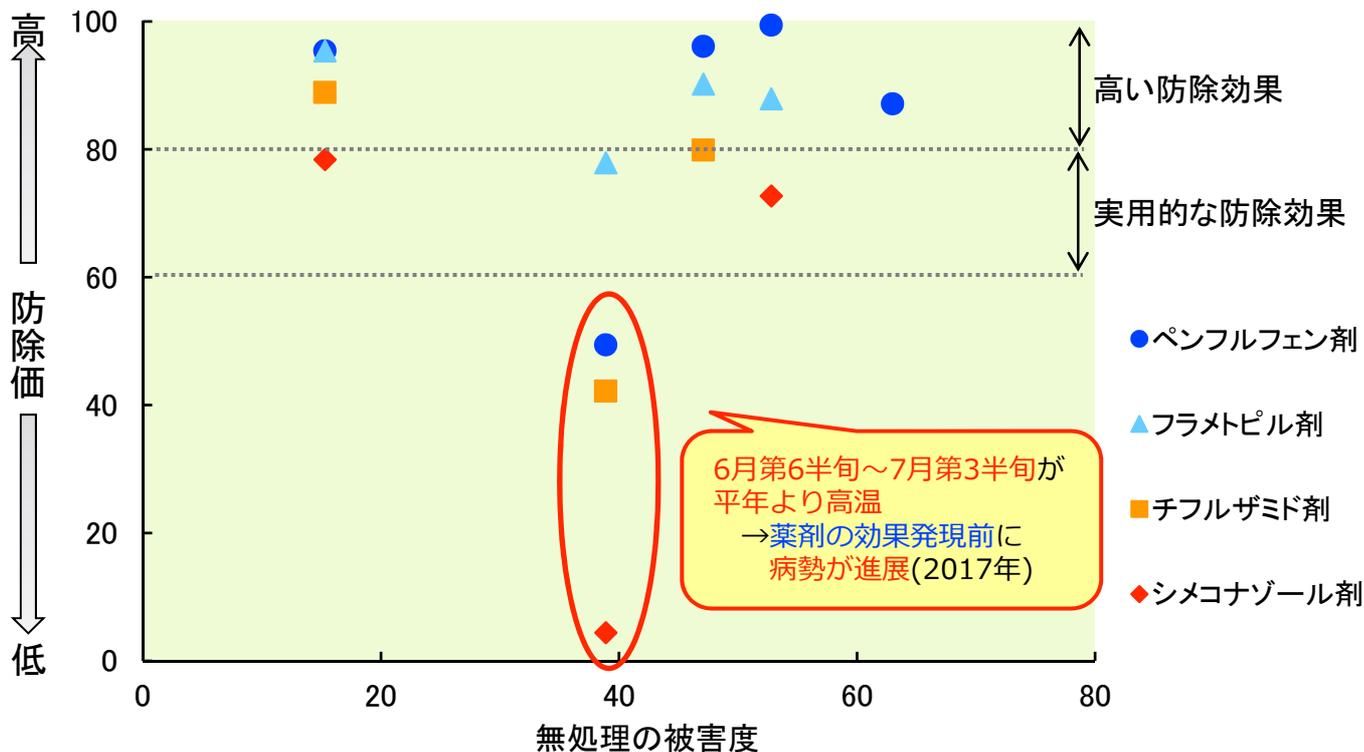


図. 水稻中生品種における**イネ紋枯病**に対する**各種育苗箱施用剤**の防除効果 (2014~2018年)

注) 試験場所: 鳥取市橋本(鳥取県農業試験場)

耕種概要: 品種; きぬむすめ、移植日; 5月19~27日(稚苗機械移植、18箱/10a)、出穂期; 8月13~20日

薬剤処理: いずれの薬剤も処理量は50g/箱

発病調査: 9月13日~10月1日(防除価は被害度から算出)

無処理の発病程度(全体の被害度): 2014年; 多発生(63.1)、2015年; 多発生(47.1)、

2016年; 少発生(15.3)、2017年; 多発生(38.9)、2018年; 多発生(52.8)

【各種育苗箱施用剤の例(2019年3月13日現在)】

- ・ペンフルフェン剤: スクラム箱粒剤、ルーチンエキスパート箱粒剤 等
- ・フラメトピル剤: 箱いり娘粒剤、箱維新粒剤 等
- ・チフルザミド剤: Dr.オリゼフェルテラグレータム粒剤、ルーチンアドスピノGT箱粒剤 等
- ・シメコナゾール剤: サンエース箱粒剤、トリプルキック箱粒剤 等

※薬剤によって**対象病害虫が異なる**ため、栽培地域に適した薬剤を選択しましょう

注意事項

- ・本情報の対象は、鳥取県内の水稻中生品種です
- ・図中の赤吹き出し部の気象条件の場合、早生品種においてもペンフルフェン剤、チフルザミド剤およびシメコナゾール剤では、十分な防除効果が得られない可能性があります
- ・幼穂形成期頃の発病株率が20%以上の場合、本田散布剤(バリダシン液剤、モンカットファイン粉剤20DL、モンセレン粉剤DL、リンバー粒剤等)による追加防除を行う必要があります
- ・薬剤は規定量を均一に散布しましょう(薬剤の防除効果に影響します)

本書から転載複製する場合には
必ず鳥取県農業試験場の許可を受けてください

(お問い合わせ先)
鳥取県農業試験場 環境研究室
電話 0857-53-0721